

# 障がいに対する理解を深める研修・啓発活動講師団 ニュース

～障がいの有無にかかわらず、お互いに認め合い、思いやり、支え合う社会をつくるために～

No.12 2016.8.10

市職員のうち、係長・主査級職員を対象に、「ともに生きる条例」について理解する職員研修を行いました。合計5回開催し、188人が参加しました。

平成28年5月30日(月) ①10:00～11:30、②13:30～15:00

平成28年5月31日(火) ③10:00～11:30、④13:30～15:00

平成28年6月2日(木) ⑤10:00～11:30

## 研修の流れ

### ① ともに生きる条例の概要等

障害福祉課職員から、合理的配慮の考え方、実践事例等について説明しました。

### ② 障がいのある人が置かれている状況

講師団講師から、それぞれの置かれている状況や体験などを話しました。(講師は裏面に記載)

### ③ 体験

障がいを身を持って体験することで、障がいへの理解を深めてもらうため、「車いす体験」と「アイマスク体験」を行いました。



## 研修参加者の声

参加した職員からの声をご紹介します。

- 障がい者についての施策を考えるときは、実際に声をかけていかなければ具体的に効果的なものにはならないと感じた。
- ともに生きるということは、相手の立場に立つということから始まると思うので、常にその気持ちを持ってサポートしていきたい。
- 市の職員としてだけでなく、人として相手を思いやれる社会、思いやりの精神は絶対に必要。
- 思うのと体験するのとでは、かなりギャップがあり、体験してはじめて理解できた。



と も に 生 き る 条 例



発行：別府市福祉保健部障害福祉課

〒874-8511 別府市上野口町1番15号

TEL：0977-21-1413 FAX：0977-22-1780

E-mail：haw-hw@city.beppu.oita.jp

市ホームページ URL：http://www.city.beppu.oita.jp

## お話をいただいた講師団講師

### 河野 龍児 さん（肢体不自由）

高校3年生時、海水浴の事故で頸椎を損傷。

現在は、地域での高齢者、障がい者を支援する会社、株式会社リフライで本部長を務めている。



#### （講話の概要）

ユニバーサル・デザインによるまちづくり活動実体験から、施設整備を行う際に障がいの当事者から意見を聴くことの重要性についてお話いただきました。

### 川野 陽子 さん（肢体不自由）

1歳時にウェルドニッヒ・ホフマン病と診断される。

現在は、NPO法人あっとほうむぶれいすでコーディネーターとして活動している。



#### （講話の概要）

自らの成長の軌跡と、様々な場面で配慮が足りなかったこと、配慮してもらったことができた体験などについてお話いただきました。

### 大野 有香 さん（精神障がい）

23歳時に発病。

現在は、NPO法人星座オリオンで活動を行っている。



#### （講話の概要）

病気と闘った自らの経験と、星座オリオンで仲間と困りながら活動を行って充実している現在の状況についてお話いただきました。

### 佐藤 紘造 さん

#### （精神障がいのある人の親）

子どもが10代で発症。

現在は、NPO法人星座オリオンの理事長として、精神障がいのある人の支援を精力的に行っている。



#### （講話の概要）

障がいのある子どもの発症時から現在までの歩みについてお話いただきました。

### 永松 温子 さん（重度心身障がいのある人の親）

高校教諭、支援学校教諭を務め、現在は社会福祉法人べっぴん優ゆうの支援員として活動している。

#### （講話の概要）

子どもがウィルス感染の後遺症で重い障がいを持つに至った。最初は障がいがあるという現実を受け入れることができなかった。立ってほしい、歩いてほしい、しゃべってほしいとずっと願ってきたが、今はこのままの子どもがいとおいしいと思える。それは、周囲の色々な人の助けや支えがあったからだと思う。

今は子どもも大きくなり、私たち親がいなくなった後のことが心配である。



### 高橋 勇 さん（視覚障がい）

緑内障により30代で失明。

現在は、鍼灸院を営むとともに、大分県盲人協会の理事、別府市視覚障害者協会会長としても活動している。



#### （講話の概要）

視覚障がいのある人が一番困るのは、書くこと、読むこと。署名の代筆を認めてもらえないと本当に困る。

また、市役所でも、点字ブロックがあるところなどないところがあるなど、まだまだ整備の足りない部分がある。

### 瀬戸 弘美 さん（視覚障がい）

50代で緑内障との診断を受ける。

現在は、別府市視覚障害者協会の理事を務める。



#### （講話の概要）

視覚障がいのある人は白杖を持っている。白杖を持っている人が道でたたずんでいるなど困っている様子のときは、声をかけていただけるととてもうれしい。

緑内障は、8人に1人がかかる病気。早期発見で進行を止めることができるので、気をつけてほしい。